

森岡地区拠点施設基本計画【概要版】

2026.7.30時点

資料1

I 背景・目的等

東浦町公共施設再配置計画に基づき、森岡地区を地区拠点形成のモデル事業として位置付け、地区施設の複合化・集約化により、多世代交流や多機能化による利便性向上や合理性・効率性の最大化、コスト縮減等を図るため、2025年10月に森岡地区拠点施設基本構想を策定した。その内容を受け、森岡地区拠点施設基本計画では、施設整備に向け、施設計画、管理運営計画、事業手法等について検討する。

II 諸室等構成計画

II-1.森岡地区拠点施設に係る複合対象施設概要

施設名	建築年	延床面積 (㎡)	施設名	建築年	延床面積 (㎡)
森岡分団詰所	1981	100	森岡コミュニティセンター	1980	788
北部防災倉庫	1987	270	森岡老人憩の家	1987	172
森岡保育園	1971	617	北部ふれあいセンター	1994	721
なかよし学園	2011	324	森岡小学校	1963	6,886
森岡西保育園	1975	1,337	防災倉庫等(森岡小学校等)	—	48
森岡児童館	1997	329	計		11,592

II-2.導入機能及び必要となるスペース

機能 スペース	教育	保育	地域活動 ・イベント	運動	交流 連携	支援	消防 防災	管理
小学校 (普通教室等)	○		○		○	○	○	○
学び・食 (特別教室等)	○		○	○	○	○	○	
運動	○		○	○	○		○	
地域	○		○	○	○		○	
集い	○		○		○	○	○	
子ども・支援	○	○	○		○	○	○	
管理								○
消防・防災							○	
保育園		○					○	○

II-3.主要諸室及び規模の設定

諸室	延床面積	諸室・面積の考え方
①小学校(普通教室等)のスペース(4,210㎡)		
①-1普通教室 (特別支援学級含む)	1,344㎡	普通教室18学級 特別支援学級6学級
①-2ラーニングスペース (オープンスペース)	384㎡	新しい時代の学びを見据えた個別化・個性化教育を推進するため、より様々な人数や形態に応じた多様な学びができるよう、各学年に普通教室と一体的に活用可能なフレキシブルな空間
①-3校内教育支援センター	11㎡	自分のクラスには入りづらい児童が、学校内の落ち着いた空間で、自分のペースに応じて学習・生活できるように設置される場所
①-4相談室・カウンセラー室	15㎡	児童の心の悩み・不安・ストレス等についてスクールカウンセラーが相談・カウンセリング等を行うための場所
①-5通級指導教室	20㎡	通常の学級に在籍し、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする児童に対して特別な指導を行う場所
①-6職員室	256㎡	教職員の事務を行う場所
①-7事務室	24㎡	共同学校事務室(森岡・緒川・緒川新田地区の拠点)として県職員の事務を行う場所
①-8管理諸室	408㎡	職員室・事務室以外の管理諸室機能 配膳室、放送室、応接室、保健室、印刷室、教材室、職員用更衣室、職員用便所
①-9児童用更衣室	64㎡	児童が利用する更衣スペース
①共用部	1,684㎡	スペース全体面積の約40%で設定

諸室	延床面積	諸室・面積の考え方
②学び・食(特別教室等)のスペース(1,284㎡)		
②-1特別教室	771㎡	特別教室機能 図書館・図書準備室、理科室・理科室準備室、音楽室・音楽室準備室・音楽の広場、図工室、家庭科室
②-2多目的ホール	192㎡	新しい時代の学びを見据えた個別化・個性化教育を推進するため、学年集会及び地域コミュニティ行事、児童のアクティブな活動等を行うことができるフレキシブルな空間
②共用部	321㎡	スペース全体面積の約25%で設定
③運動のスペース(952㎡)		
③-1体育館	904㎡	小学校の体育授業や式典、地域の運動(バレー、バドミントン、バスケ等)、放課後子ども教室(アフタースクール)、児童のアクティブな活動、選挙投票所等の場
③-2プール	0㎡	水泳授業の民間委託により、施設内には設けない
③-3屋外体育倉庫	48㎡	グラウンド等の屋外活動に係る器具等の保管場所

④地域のスペース(253㎡) ※フレキシブルな空間としての利用を想定しているため、諸室分けは仮設定		
④-1多目的室1(仮)	100㎡	ヨガ、サークル等の軽運動や、一般教室等の活動、児童のアクティブな活動等、フレキシブルな場所として利用
④-2多目的室2(仮)	55㎡	一般教室、老人クラブ等の活動に加え、学校会議や消防団会議、児童のアクティブな活動等、フレキシブルな場所として利用
④-3多目的室3(仮)	35㎡	
④共用部	63㎡	スペース全体面積の約25%で設定
⑤集いのスペース(133㎡)		
⑤-1集いのスペース	100㎡	エントランス機能や施設利用者の滞留スペースとしてだけでなく、地域学校協働・ボランティアやふくく何でも相談を含む交流・休憩・展示・発表・活動等、様々なアクティビティが可能な場所
⑤共用部	33㎡	スペース全体面積の約25%で設定
⑥子ども・支援のスペース(691㎡)		
⑥-1児童クラブ	200㎡	児童クラブ機能(児童の静かな遊び場や備品・荷物置場等)
⑥-2児童館	50㎡	児童館機能(児童の静かな遊び場や備品・荷物置場等)
⑥-3なかよし学園	268㎡	障害児通所支援の場所
⑥共用部	173㎡	スペース全体面積の約25%で設定
⑦管理のスペース(293㎡)		
⑦-1事務室等	63㎡	児童館・児童クラブ、コミュニティセンター、ふれあいセンターに係る事務室等の管理機能
⑦-2倉庫	157㎡	平常時に利用する森岡地区拠点施設全体の倉庫
⑦共用部	73㎡	スペース全体面積の約25%で設定
⑧消防・防災のスペース(300㎡)		
⑧-1防災倉庫	200㎡	緊急時に利用する防災倉庫
⑧-2森岡分団詰所	100㎡	消防活動のための分団の詰所
⑨保育園のスペース(0㎡(民設民営))		
⑨保育園	—	民設民営の保育所等

⑥子ども・支援のスペース(691㎡)		
⑥-1児童クラブ	200㎡	児童クラブ機能(児童の静かな遊び場や備品・荷物置場等)
⑥-2児童館	50㎡	児童館機能(児童の静かな遊び場や備品・荷物置場等)
⑥-3なかよし学園	268㎡	障害児通所支援の場所
⑥共用部	173㎡	スペース全体面積の約25%で設定
⑦管理のスペース(293㎡)		
⑦-1事務室等	63㎡	児童館・児童クラブ、コミュニティセンター、ふれあいセンターに係る事務室等の管理機能
⑦-2倉庫	157㎡	平常時に利用する森岡地区拠点施設全体の倉庫
⑦共用部	73㎡	スペース全体面積の約25%で設定
⑧消防・防災のスペース(300㎡)		
⑧-1防災倉庫	200㎡	緊急時に利用する防災倉庫
⑧-2森岡分団詰所	100㎡	消防活動のための分団の詰所
⑨保育園のスペース(0㎡(民設民営))		
⑨保育園	—	民設民営の保育所等

II-4.面積縮減効果

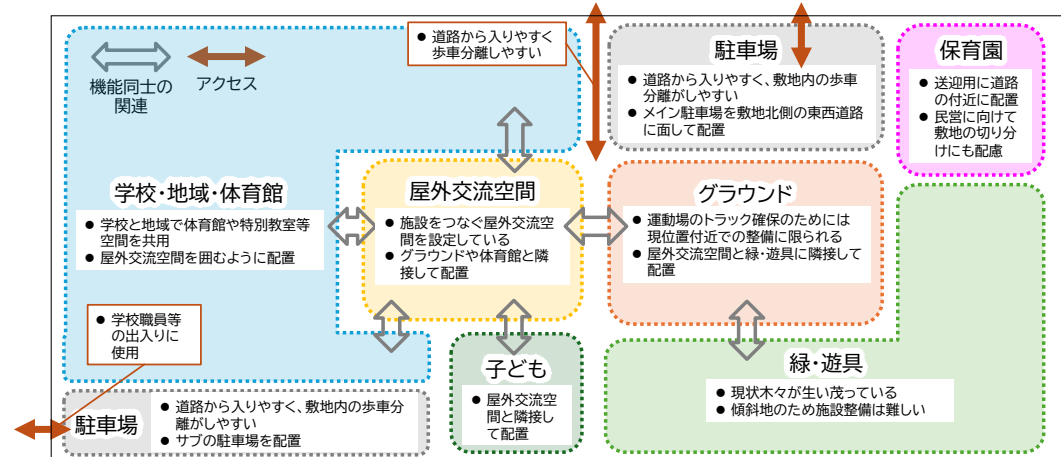
既存施設面積合計	11,592㎡
新施設面積合計	8,116㎡
面積増減(面積増減率)	-3,476㎡(-30%)

II-5.屋外空間の設定

屋外空間	概要
運動のスペース	
グラウンド	小学校授業に必要な200mトラックを配置できる広さを確保した、屋外運動施設
遊具コーナー	子どもの健全な育成を図るために必要な遊具を配置した場所
集いのスペース	
交流広場	屋外空間における交流の拠点として、誰もが利用できる交流広場 休憩、リフレッシュ、学習等に活用できる、自然に親しむ場所
花壇	小学校教育や地域活動等で利用する花壇
子ども・支援のスペース	
園庭等	なかよし学園に必要となる園庭等の屋外空間
保育園のスペース	
園庭等	保育園に必要となる園庭等の屋外空間
その他	
駐車場	利用者用駐車場:112台、職員駐車場:88台、消防車両駐車場:2台

III 配置・動線計画

III-1.各スペースの配置関係性



III-2.配置・動線計画案の設定

配置・動線計画案の比較検討の結果、敷地ゾーニング案で特に大きな課題がない案をもとに、配置・動線計画案を以下のとおり設定した。なお、基本計画における配置・動線計画案は、最終的な配置や計画内容を拘束するものではなく、柔軟な計画とすることとし、今後の設計段階における創意工夫や更なる検討を期待するものである。



IV 建築計画

①長寿命化の考え方

東浦町公共施設等総合管理計画に示されている長寿命化の実施方針を踏まえ、ライフサイクルコスト削減を図るために、計画的な修繕による維持管理を前提とする。

あわせて、VUCA(将来の予測不可能)の時代における将来的な児童数や利用者数の減少、利用ニーズの変化等を踏まえ、多様性・柔軟性・可変性のある空間の確保に加え、余裕教室の活用等、将来的な用途転用や減築等にも配慮する。

②環境負荷低減の考え方

- エネルギー消費量の削減と環境負荷低減の観点から、可能な範囲でZEB化を目指し、省エネルギー機器の導入や積極的な再生可能エネルギーの導入を推進する。
- 難燃化対策等による災害時の安全性に配慮しつつ、二酸化炭素の貯蔵や排出抑制にもつながる木質利用を推進する。

③防災機能の考え方

- 指定避難所としての役割を担うことから、大規模な地震が発生した場合においても、人命の安全を確保するとともに、避難所として必要な機能を継続できるよう、十分な耐震性能と安全性を確保することを基本とする。
- 森岡地区拠点施設全体を避難所として活用することを想定し、日常的に利用する教室や共用空間等が災害時には避難生活の場として機能するよう「フェーズフリー」の考え方を、施設全体に取り入れる。
- 指定避難所としての機能向上を図るため、今後の防災計画等を踏まえた防災機能の充実に対応できるよう、必要となる設置スペース等を確保した計画とする。

④ユニバーサルデザイン・インクルーシブデザインの考え方

- 高齢者や障害のある人をはじめ、子ども、妊産婦等、多様な利用者が安全かつ円滑に利用できるよう、バリアフリーを基本とした物理的障壁の解消を図るとともに、ユニバーサルデザイン及びインクルーシブデザインの視点を取り入れ、誰もが安心して利用・参加できる公共空間を形成する。

⑤周辺の住環境への配慮

- 敷地周辺の住環境への影響を考慮し、日照、騒音等に配慮する。

⑥眺望を活かした配置

- 本敷地の周辺には、西側はブドウ畑、南側は田・畑と豊かな自然環境を有しており、東浦町景観計画(平成28年4月)において作成された景観資源図では、現森岡小学校が眺望点として示されている。以上を踏まえ、周辺眺望を敷地の重要な資源の一つとして捉え、周辺の自然を感じられる空間構成を検討する必要がある。

⑦個別化・個性化教育の推進への配慮

- 個別化・個性化教育の推進に伴う多様な空間利用を想定し、家具配置と合わせてフレキシブル(柔軟性・可変性)のある多様な空間づくりを目指す。
- また、快適な学びの拠点となるよう、教室配置や壁配置、形状、素材の工夫等により、音環境等に配慮する。

⑧セキュリティへの配慮

- 交流の拠点と防災拠点の両立に向け、共創空間の実現のしやすさ(地域住民の利用しやすさ)のための地域に開いた空間構成とセキュリティ(防犯性)の確保の双方へ配慮する。

V 概算事業費

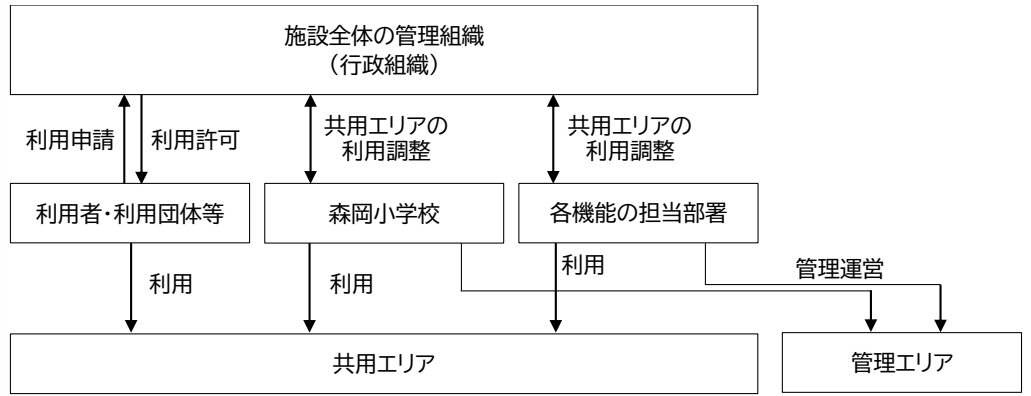
今後作成
・概算工事費
・概算管理運営費
・財政縮減効果

VI 管理運営計画

VI-1.管理運営の考え方

新施設は、一つの部屋を複数のアクティビティの場として共用するため、新たな管理運営体制を検討することが望ましい。また、セキュリティの観点から、地域と学校が共用する「共用エリア」、施設関係者が利用する「管理エリア」に区分して、管理運営を行うことを検討する。

【管理運営体制イメージ】



VI-2.管理運営計画

各スペース・主要諸室の管理運営に係るエリア区分について以下のように設定した。共用エリアの主要諸室については、学校教育活動と地域利用の両立を図るため、施設全体の管理組織のもと管理運営する。管理エリアのうち、職員室・事務室や配膳室・放送室などの管理諸室については学校で管理運営し、児童館・児童クラブ、コミュニティセンター、北部ふれあいセンターの事務室等や防災倉庫、森岡分団詰所については、担当部署ごとに管理運営を行う。

エリア区分	スペース	共用の考え方
共用エリア	小学校(普通教室等)のスペース	「学び・食(特別教室等)のスペース」だけでは地域の利用スペースが不足する場合等に、児童への影響を考慮しつつ、共用化を検討する。
	学び・食(特別教室等)のスペース	授業以外の時間等は積極的に共用化を図る。
	運動のスペース	
	地域のスペース	地域利用を優先とするが、学校等での利用も想定し、積極的に共用化を図る。
	集いのスペース	
管理エリア	子ども・支援のスペース	児童クラブ・児童館業務以外の時間は、共用化を検討する。(なかよし学園を除く)
	小学校(普通教室等)のスペース	管理エリアは原則、共用化を図らないものとするが、職員・部署間連携等を図るため、職員室や事務室等は可能な限り一体的な運用を図る。
	管理のスペース	
	消防・防災のスペース	

VII 事業手法の検討

VII-1.事業手法の整理

一般的な官民連携手法概要を作成

VII-2.民間事業者ヒアリング

ヒアリングを受けて作成

VII-3.事業手法及び事業スケジュール

ヒアリングを受けて想定される手法及びその事業スケジュールを作成

VIII 今後の取組み

財源や跡地活用も含めて今後の設計に向けた配慮事項を作成